
想いのまま

暁 ?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

想いのまま

【著者名】

ゼーノ

【作者名】
暁
?

【あらすじ】
子供の頃から今までに体験したり、見聞きしたことから学んだエッセイ集。短歌や川柳も交えて綴る人世論。

人間（前書き）

人生五十年と昔は言った。今は、人生百年の世界に入っている。昔と今とは、比べものにはならないであろうが。昔の人生五十年を過ぎた今、あと五十年生きるかもしれない今、過去を振り返りつつ、未来を見据えつつ書き綴つてみたいと思う。子供の頃のこと、中学・高校・大学の学生時代。二十代・三十代に考えていたことと今、大して変わってはない。子供の時のまんまだつたりもする。こんな幼稚で馬鹿な大人がいることを、いまの若者にも判つて欲しい。そして、同年代に共感を与えることが出来、人生に何かの指針を与えることが出来れば幸いである。

人間

子供の頃、父親に庭で教えてもらったことがある。ありのおしゃべり・あり地獄・蜘蛛の巣などなど。父親は、虫が好きであつたわけでもなさそうだったが、おもしろくなつて、その後、夢中になつて観察したものだ。

あんな小さなものにも生命が宿つている。人間と同じように。彼らは何を考えているのか、不思議に思つたものだ。

さて、彼らには、人間と同じように、心が宿つているのだろうか？頭に脳が詰まっているのだろうか？

五十過ぎた、今でも疑問である。

ありや蜘蛛の脳みそを解剖して、発表した研究者はいないだろうか。なぜ、蜘蛛は、あんなにも正確に幾何学的な網を張ることが出来るのだろう。

なぜ、あるいは、おしゃべりしながら食物を自分の巣へ持ち帰ることが出来るのだろう？

そして、彼らから見たら超巨大な人間を、どう見ているのだろう？気がつかずに踏みつぶしたり、大事な蜘蛛の巣を取り払ってしまう人間をどう思つているのだろう？

随分と身勝手な奴だと思つてはいけないだろうか？

今の、人間社会にも当てはまる構図のような氣もする。

巨大な（自分できょだいとおもつてゐるだけかもしれないが・・・）権力者や資本家が、小さくて可弱な人間を、いじめてゐるのではないと思つ。

知らずにありを踏みつぶすように、知らずのうちにだ。

知らずのうちにだから、当然罪悪感など無い。仮に知っていたとしても、ありや蜘蛛の一匹や一匹どうってことはない、と思つである。

所詮、力の世の中なかもしれない。弱者は弱者の中で生きなければならないのかもしだれないが、弱者の力は、集まつたらとてつもなく大きなものになる。

ありがゾウを倒すのも事実だ。

強者は、自分の下にあるもの、気がつかずに虜げてしまつものに對して気遣わねばならない。そして、その下にいるものも、またその下にも小さなものがあることに気づかねばならない。

それが、思いやり（想いやり）の基本であろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9650o/>

想いのまま

2010年11月17日08時53分発行